

主題設定の理由

近年における都市化、情報化など社会環境や生活様式の変化、更に少子化などが原因となって子どもたちの身体的活動の減少、食生活の変化、精神的ストレスの増大、人間関係の希薄化などがもたらされ、子どもたちの心身の健全な発育・発達に深刻な影響を与えている。

そこで、学校教育においては「生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う」ことが重要視されている。また、保健体育審議会の答申では、「生涯にわたって健康な生活を送るためには自らの健康問題を認識し、健康の増進を図る努力が必要であり、そのためには健康の保持増進に必要な知識や、能力、態度を身に付ける保健教育を組織的に展開する必要がある」と示している。まさに、「生きる力」を育む視点を重視した健康教育の推進が望まれている。

こうした中、本校は、平成14年度・15年度の2年間、群馬県教育委員会より学校保健実践推進校の指定を受ける機会を得た。そこで昨年度は、「生きる力」を支える健康でたくましい体づくりの育成を児童の主体的な健康づくりととらえ、「心の面」と「体の面」からどう子どもたちの健康づくりに迫るかを考えた。そして、児童の実態と照らし、これまでの本校の教育活動を「健康教育」という視点から見直し、改善・実践を図るとともに、健やかな心と体をはぐくむ支援・指導の工夫を通して、「自ら健康な生活をしていこうとする児童の育成」をねらいとして実践してきた。その結果、「心の健康」面では、高学年には「思いやる心」が低学年には「がんばりぬく心」が育ちつつある。「体の健康」面では、自ら進んで体を鍛え、意欲的に運動に取り組もうとする児童も増えてきた。また、生活リズムを整えることや望ましい食習慣を身に付けることの大切さも分かってきている。しかし、夜型生活・偏食傾向・不規則な生活リズム・肥満傾向や視力低下・基礎体力の低下・また、友だちを大切にしようという気持ちもうかがえる反面、思いやりに欠ける言動をとってしまうなどの問題があるのも事実である。つまり、心身の健康に関して知識はある程度あるが、一人一人自分の問題として自覚するまでには至っていない。

そこで、本年度は、もう一度自分の生活を振り返り健康に関心を抱き、その保持・増進のために必要な知識をしっかり身に付けることが必要である。その上で自分の健康を自分でつくっていこうとする主体的な実践力を培っていくことが必要であると考え、本主題を設定した。なお、主題に迫る主な手立てとしては、「健康教育にかかわる教育活動の充実」「健康意識を高める保健学習の展開」「生活点検（つばいカルテ）による生活習慣の確立と自己管理能力の育成」「保護者及び地域への啓発活動」などを行うことにした。これは、本校の教育目標である「思いやりのある子、気づき考える子、がんばりぬく子」の育成にも合致するものとする。